

第4回わかやまの棚田・段々畑サミットを開催

平成29年8月25日（金）～26日（土）の2日間、田辺市において、「第4回わかやまの棚田・段々畑サミット」を開催しました。シンポジウムでは、棚田等の保全を通じた地域住民と都市住民との交流について県内外の取り組みを学び、現地見学会では「下廣井原（しもひろいはら）」と「温川（ぬるみがわ）」の棚田を散策しました。

1) 開催概要

和歌山県では「和歌山県棚田等保全連絡協議会」（※1）を中心に、棚田・段々畑の保全活動や組織間の情報交換を支援しています。

平成25年に「第19回全国棚田（千枚田）サミット」が有田川町で開催されたことを契機に、地域資源である棚田等の保全活動を発展させていくことを目的として、平成26年から「わかやまの棚田・段々畑サミット」を開催しています。

4回目となる今年は、田辺市を開催地として「逆境に立ち向かえ！！未来につなげる農村空間～人と農の歩む道～」をテーマに、シンポジウム（基調講演・パネルディスカッション）、現地見学を行いました。

【※1 県内23市町村、県土地改良事業団体連合会、県農業協同組合中央会、並びに6つの棚田保全団体で組織する協議会】



多くの方にご参加いただきました

2) 8月26日（シンポジウム）

1日目のシンポジウムは龍神市民センターにおいて実施され351名が参加しました。

開会の後、「わかやまの美しい棚田・段々畑（※2）」認定証授与式を行いました。この制度は、過疎化、高齢化の進む中山間地域において、棚田・段々畑を守っている保全団体ならびに地域を認定するもので、今年度は印南町の上洞地区（※3）が認定となり、合計10地区となりました。

今後も、基準に達した地区を認定し、耕作を続ける地域の取り組みに対する理解を促すため、活動内容等の情報を県内外に発信することで、都市住民等との交流促進による地域活性化につなげていきたいと考えています。



「美しい棚田・段々畑」の認定証の授与

【※2 わかやまの美しい棚田・段々畑の基準】

- (1) 地形勾配がおおむね20分の1以上の階段状の水田または畑であり、美しい景観が保全されている地区であること。
- (2) 概ね1ha以上の団地を構成していること。
- (3) 農地の維持管理が行われており、今後も継続して行われる見込みがあること。
- (4) 地域の特色を生かした共同の営農活動、他地域との交流活動、環境保全活動、その他の保全活動に取り組んでいる又は取り組む予定地区であること。

【※3 平成29年度認定地区】

・印南町 上洞の棚田・段々畑

旧印南町東部に位置する上洞集落は、古くから切目川の水を使ってお米が栽培され、特産の千両を栽培する小屋とともに美しい景観が広がっています。上洞棚田を守る会がその保全に取り組んでいます。



上洞の棚田・段々畑

基調講演では、広島県三次市の青河自治振興会 会長 岩崎積氏より「こころあたたまる ふるさと あおが」と題し、講演いただきました。

青河地区では、住民自ら作成した計画「青河まちづくりビジョン」のもと、行政に頼らない、全て自分たちの手作りでやるという信念で、農業者の意欲を高める活動、住民の暮らしをサポート、小学校人口減少に歯止めをかけるための様々な活動を展開しており、住民が主体となった町づくりのお話を聴くことができました。



基調講演

引き続きいて、パネルディスカッションでは、コーディネーターに和歌山大学食農総合研究所の岸上光克（きしがみみつよし）准教授、アドバイザーにはNPO法人棚田ネットワーク代表の中島峰広氏、パネリストに、静岡県松崎町石部地区の有馬稔（ありまみのる）氏、田辺市中辺路町温川地区の石山佑一（いしやまゆういち）氏、田辺市龍神村の川野智志（かわのさとし）氏を迎え、まず各団体の活動を紹介していただきました。

有馬氏は地域おこし協力隊で石部地区に入り、退任後も保存会の一員となって率先して活動しています。松崎町石部地区では、一枚も耕作されず原野と化していた棚田を複田、棚田のオーナー制度を導入し、地区外の交流も拡大、地域の活性化に取り組んでいます。

石山氏は温川の美しさに魅了されて大阪から移住、ほっとスポット温川実行委員会の会長を務めるとともに、地域住民と協力してイベントを開催し、また森の幼稚園を開園するなど温川地域に人を呼び込む活動を積極的に行っています。



パネリスト

川野氏は地域おこし協力隊として、龍神寄合会に派遣、現在、休耕田の活用として、龍神村の新たな食の傾聴までを視野に入れた、ソバ栽培に取り組んでいます。

ディスカッションでは、今回のパネリスト3人がIターン者であることから、移住地域で生活するための収入を得る苦勞がうかがえました。また、地域は違っても、中山間地域で抱えている問題は共通のものがああり、パネリスト達が地域のことを何とかしていこうと、もがき頑張っている姿が感じられました。アドバイザーの中島氏からは、まじめに考えることは大事だがリラックスして楽しいことをやっいていこうという発想を持って取組んで欲しいと話がありました。

全体を通して、棚田・段々畑の保全や中山間地域の活性化には、今回のパネリストのように頑張っている人だけでなく、地元住民、行政、大学教育関係者や学生等いろんな方々が一緒に取組んでいくことが重要だと認識しました。



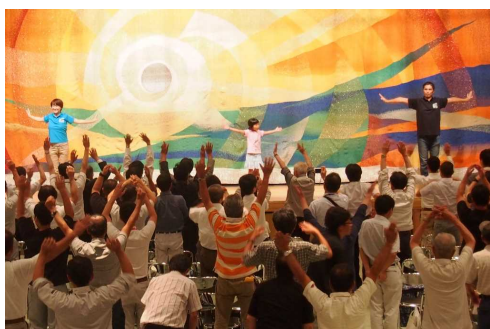
コーディネーターの岸上准教授



アドバイザーの中島氏(右)

また、途中の休憩では、龍神温泉美人体操を実施し、参加者は前で実演するインストラクターを見ながら音楽に合わせて体操し、長時間座っていた体をほぐしました。

さらに、会場のロビーには、地域で棚田保全等の活動をしている団体の活動紹介や地域の農産物を使った加工品の販売ブースを設けるとともに、地域での活動のヒントとなるよう、中山間地域等直接支払制度ならびに多面的機能支払制度に取り組む組織による活動事例のパネル展示を行いました。



龍神温泉美人体操



中山間など直接支払制度の展示

シンポジウム終了後の交流会は龍神温泉季楽里で96名に参加いただき、龍神村産の食材を使った料理に舌鼓を打ちながら、それぞれの地域の取り組みや課題等について、活発に意見交換が行われました。



交流会

2) 8月26日(現地見学)

2日目は、田辺市内2ヶ所の棚田を現地見学しました(参加者103名)。

最初に、平成26年に「わかやまの美しい棚田・段々畑」に認定された仮谷集落の「下廣井原の棚田」を訪れました。地域の農地や水路の保全、獣害ネットの設置、管理は集落全体の共同活動として行っており、近年は米以外にも龍神地域独特の硬めで濃厚な豆腐の原料となる大豆づくりも取り入れ棚田保全に取り組んでいます。散策で登った丘の上では、地域の方々が龍神豆腐と龍神茶をふるまい、見学者は美味しくいただきました。



下廣井原の棚田を散策

次に平成27年にわかやまの美しい棚田・段々畑に認定された温川の棚田です。

温川地区では、昨年ワークショップを開き「ワクワクした生き方と集落作り」をテーマに温川区の人の生きがい創造できる集落を目指しています。その一貫として、案山子づくりのイベントが開催され、その時に作った案山子が散策する参加者を出迎えてくれました。



温川の棚田を散策

散策のゴール地点では、地域の交流の場となっているホワイトスペースの施設をお借りして、温川地区の方々が作ったお弁当でおもてなししていただきました。



お弁当のおもてなし

5) おわりに

棚田や段々畑を保全し集落を守っていくためには、村人だけではなく、いろんな方々の理解と協力を得ることも重要であると再認識しました。今回で4回目となる県版サミットですが、意見交換や情報交換を通じて、地域活動に取り組む方々の交流の機会になってきていると思います。各地域で抱える課題や悩みを解決し、明日から頑張っていく意欲に繋がってもらえれば幸いです。今後も県としては「中山間ふるさと水と土保全基金」などの活用により、地域活動を応援していきたいと考えています。